

戦のために

第8回 言の葉大賞®

わたしは、弁当を持参する中学校に入学した。父は、弁当が必要なことにかなり戸惑っていたけど、「ぼくは、貴女に何も手伝うことが出来ないから学校の弁当は作るよ。腹が減っては戦が出来ん」って言うから、貴女はしっかり食べて頑張っつてね」と入学前に言ってくれたね。

それから今日まで一日も欠かさずに弁当を作ってくれるよね。最初は、グローブのような手で握る、いびつな丸いおにぎり。だったり、鮭の切り身が一切れだけ乗ったご飯だったり、卵焼きが焦げていたり、友達の弁当に果物が入っていたことを言った翌日の弁当には、缶詰のサクランボが弁当箱の半分を占めることもあったね。一緒に食べる友達も最初の頃は、豪快な弁当にわたし以上に驚いていたと思うよ。今だから笑えるけどね。

今も相変わらず計量スプーンも使わないで適当に作る料理だけど、年々美味しくなっている気がするよ。おかずの種類も増えたしね。

一緒に行った本屋で「美味しい弁当づくり」の本を立ち読みする姿を見かけたときは少し笑えたよ。

でも、真剣に作る弁当には、冷凍食品は入れないで必ず三品以上のおかずが入っているから、わたしは驚きと感動しかありません。

どんなに仕事で帰りが遅くなっても朝には、弁当が出来ているから嬉しいよ。決して彩りの美しい弁当とは言えないけど、今、勉強という戦をしているわたしには、丸いおにぎりもつながりも気合が入って、空腹の敵とも戦えるから、弁当を食べた午後からの授業にも熱が入るよ。

自分で選んだ中学校だから、わたしをサポートしてくれる手作り弁当に感謝しています。まだ当分は弁当が必要なのでこれからもよろしく願います。